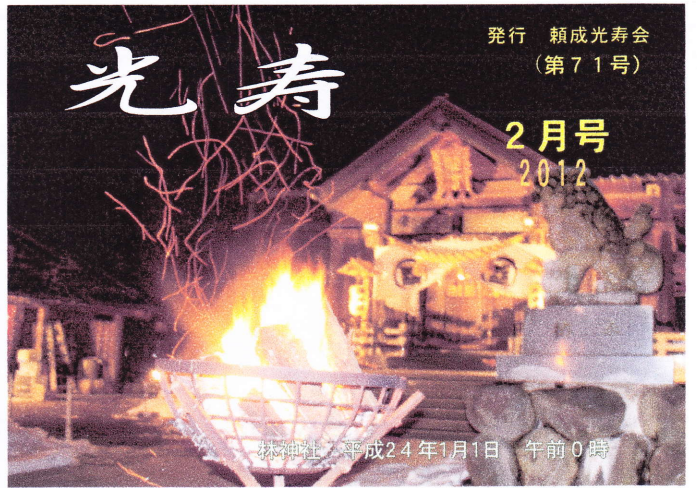


光 寿

2月号
2012



林神社 平成24年1月1日 午前0時



防団の方々が消防車で到着、新年のお祓いを受

震災復興 正念場の 年開けて

延喜式内
林神社の
歳旦祭

平成二十
四年は、満
天の星が凍
てつくよう
な厳しい寒
さの中であ
りました。
午前0時き
っかりに消
けられました。
火の焚かれ
凜とした空
気の張りつ
めた境内
に、三々五
々初詣の人
たちが訪れ
ました。
午前五時
から開田美
保さん(男、
鈴奈さん(昇
宗さん方、林
蒼葉さん(要
矩さん方)、林
さゆりさん
(菊造さん方)、
野松佳奈子
さんら五人
の巫女さん

たちも奉仕して歳旦祭が斎行され、合わせて喜
ました。ご芳名は以下の通りです。

喜寿

坂東国香さん 林 義夫さん 武部由美子さん
池田富子さん 開田道夫さん

古稀

林 紘さん 三門明武さん

還暦

林 佐登司さん 林 芳光さん 八田章義さん
林 幹雄さん 高島 実さん 林 秀一さん
八田邦夫さん 池田 浩さん 林 明広さん

厄年(四十二歳)

林 修三さん 林 仁士さん 高井克政さん

厄年(二十五歳)

林 直樹さん 八田真悟さん 林 大樹さん
林 大晃さん 池田功平さん 林 悠さん

伝統の炎あかあかと 公文名で今年も恒例の左義長

お正月の伝統的な民俗行事左義長が、今年も
一月十四日公文名で行われました。左義長の由
来についてはこれまでこの欄で触れてきまし
たので、今回はその呼び方について。
北陸三県と高知、福岡、岐阜などでは「さぎ
つちよ」という呼び方も一般的です。
しかし、富山県の中でも宇奈月町では「おん
づろこんづろ」という独特の呼び方をします。
これは舞い上がる炎の様子が大鶴と子鶴が飛び
立つ姿に似ていることから、おおつることと
言ったのが転訛したものとされています。ま
た、入善町上邑地区では「塞の神まつり」通称
「サイノカミ」とよび、国の重要無形文化財に
指定されています。

全国的にどんととかどんと焼きという呼び方
が多いようですが、「さいと焼き」、「さいの
神」、「歳の神」など、「さい」という字を頭

季節のうた

母留守の雪降る夜け子ら無口

林 香月子



残念のような気がします。

につけられた呼
び方も少ない
で、す。その
が、その多
く、共通す
るの事は、
の行は、か
を子供たち
行頭として
そとで、今
か、大人数
手で行われ
た。しょう
た。少な

木 鱒

おせち料理の中にゴマメが入っています。カタクチイワシの稚魚ですが、少し衰えた歯でそれを噛みしめながら「ゴマメの歯ぎしり」という諺を思い出しまし

た。辞典には、力のないものがやたらと悔
しがることと書いてあります。
翌日、金総書記の死去に日本が弔意を示さな
かったことについて、「野田のよみ初歩的な礼儀も
知らない者が権力の座にしがみついているのは日本
にとっても悲劇だ」と、北朝鮮の朝鮮中央日報が
日本の首相を呼び捨てにした非礼な表現で罵倒し酷
評したというニュースが伝えられました。他国民を
拉致して開き直るような国がよくもこんな口をきけ
るものだと怒りを通り越してあきれかえります。盗
人猛々しいとはまさにこのことでしょう。
「土足で家に踏みこんで来て家人を拉致していった
犯人が死んだからといって、お悔やみを述べるよう
な馬鹿がどこにいるか!」と嫌みの一つも言ってい
ればと思います。それが何となくゴマメの歯ぎし
りにしか聞こえない今の日本の不甲斐なさが情けな
くてなりません。